



はちのす

木戸小学校学校だより
令和5年 3月15日
No.270
在籍児童数400名
令和5年2月1日現在

大切にしたい 木戸小の子どもたちのよさ

校長 土田 学

私が常々木戸小学校の子どもたちのよさとして感じるものの一つに「受容する心の広さ」があります。学校生活を送っていると、感情が昂ったり、衝動を抑えられなかったりする場面が出てくる時があります。そうした時に、周りにいる子どもたちが刺激をせず「そっとしておいてあげる」という態度をとれる子が多いのです。感情が昂っていた子も、時間の経過とともに、冷静さを取り戻し、落ち着いた生活に戻る、そうした場面が多くあります。

先日行われた新潟市学習・生活意識調査では、木戸小学校は次のような項目で新潟市の平均よりも高い数字であるという結果が出ました。

- ・自分にはよいところがあります。
- ・やっていることを先生や友達に認められて、うれしいと感じることがよくあります。
- ・友達のよいところを見つけたり、友達が落ちこんでいるとき、はげましたりしています。

自己肯定感が高いのは、子どもたちが自己嫌悪に陥ったり自己肯定感を低下させられたりすることなく生活することができるからだと思います。

木戸小学校では今年度「互いに認め合い、支え合う子どもの育成」を重点目標にして、教育活動に取り組んでいます。他者から認められたり、褒められたりする経験を意識的に教育活動の中で設定していることも自己肯定感の高まりにつながっているのだと思います。

相手を受け入れる広い心や、健全な自己肯定感を育むことは生きていくうえで欠かせないものです。

そうしたものを育むことができる木戸小学校の土壌を、これからも大事にしていきたい、そのように思います。



6年生との様子遊ぼうデーの様子



ありがとう集会のゲームの様子



引継ぎ式の様子